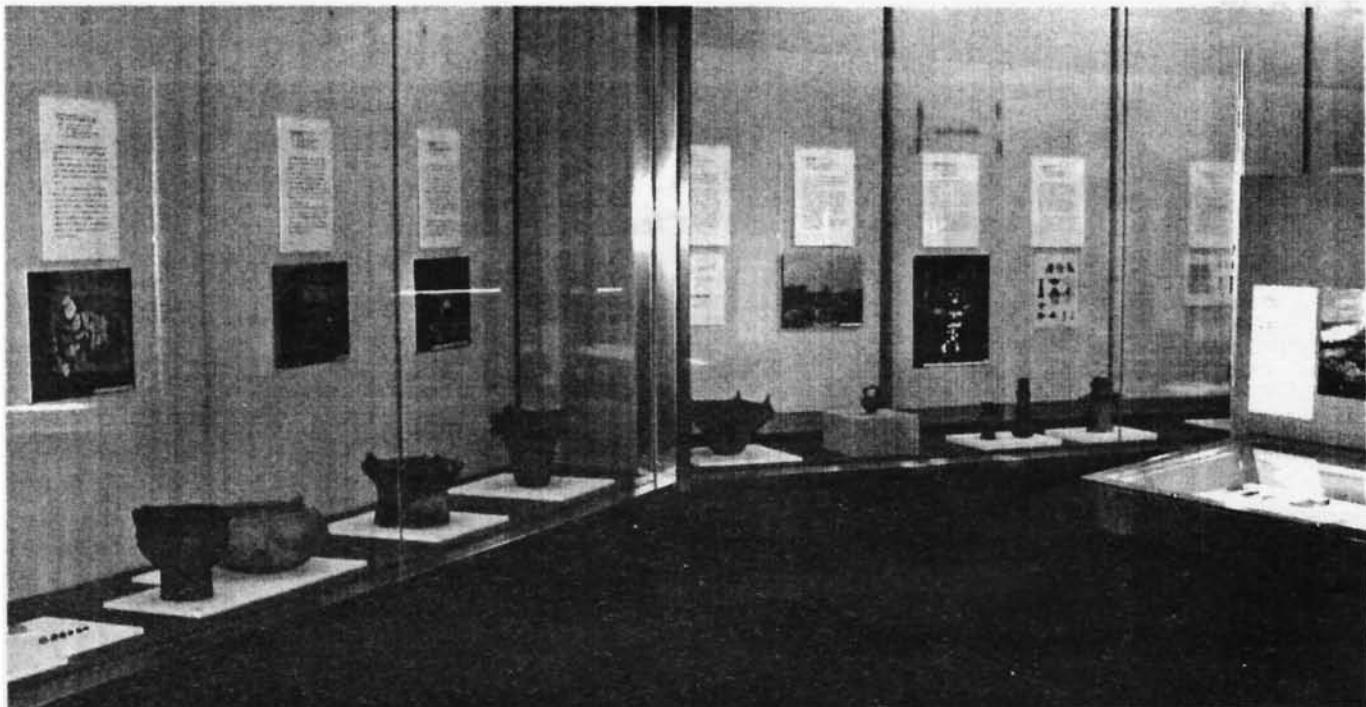




あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2002. 8月号



市制70周年記念・博物館25周年記念事業 夏期特別展「平塚市考古資料50選」

開催期間：平成14年9月1日まで

開催時間：9時～17時まで（金曜日は19時まで開館）

7月20日にオープンした特別展は、お陰様で連日、子供から大人まで多くの方々に見ていただいております。平塚を代表する出土品をじっくりご覧になれば、数々の素晴らしい資料が遺跡から出土していることを実感できると思います。会場では「あなたが選ぶベスト5」のアンケートを行っていますので、ぜひお気に入りを見つけてください。きっと、新しい発見があると思います。

また、展示資料を解説した『平塚市考古資料50選』を受付にて1,200円で販売しています。A5版114頁のオールカラーで、博物館の刊行物にはちょっと珍しい豪華な雰囲気のする本です。50の名品をゆっくり眺めながら、平塚の考古学の特色を学んでみてはいかがでしょうか。



姿は小さいが、たくさんの謎を秘めている金銅仏
(四之宮 六ノ域遺跡出土)

☆夏期特別展関連事業のお知らせ

「湘南新道関連遺跡展」

(財)かながわ考古学財団のご協力により、平成13年度に実施した六ノ域遺跡・大会原遺跡の調査成果を展示します。

期間：平成14年8月1日～9月12日

会場：博物館 寄贈品コーナー

◎スライド映写会

日 時：8月24日（土）14時～15時30分

会 場：博物館 講堂

解 説：(財)かながわ考古学財団

柏木善治・依田亮一氏

内 容：平成13年度の調査成果の発表

夏のプラネタリウム

重力 見えないけど、つながっている

皆さんはニュートンはリンゴが落ちるのを見て、「万有引力の法則」を発見した、という話を聞いたことがありますか？この夏はちょっとあたまをひねってみませんか。

地球の反対の人は逆立ち？

小さいとき、地球儀を見て、不思議に思ったことはありませんか。地球の裏側の人ってどうやって落っこちないでいられるんだろう、たいへんだなあ。逆立ちして歩いてるのかなあととか。どうしてなんでしょうか。

そう、重力があるから、ですね。あたりまえかもしれません、ではなぜ重力が働くのか、その理由は、と聞かれると困ってしまいますね。



リンゴが落ちるわけ

わたしたちは、学校で重力について学ぶとき、決まって聞く話がニュートンがリンゴの木から落ちてくるリンゴを見て、万有引力の法則を発見した、という逸話です。実際にあった話かどうかは不明なのですが、有名な話ですね。そのリンゴは、落ちてきた、と感じますが、地球の中心に向かって運動している、と考えたのがニュートンなのです。私たちもリンゴと同じように地球に引っ張られてはいますが、その分踏ん張って立ったり歩いたりできるように体ができています。でも、ささえら地面がなくなると・・ピューっと落ちていきますね。

重力とは

私たちが落ちていく時に感じるふわー、っという感じこそ重力が無いときの感覚です。私たちは重力があるのが当たり前なので、不快な感じになりますが。

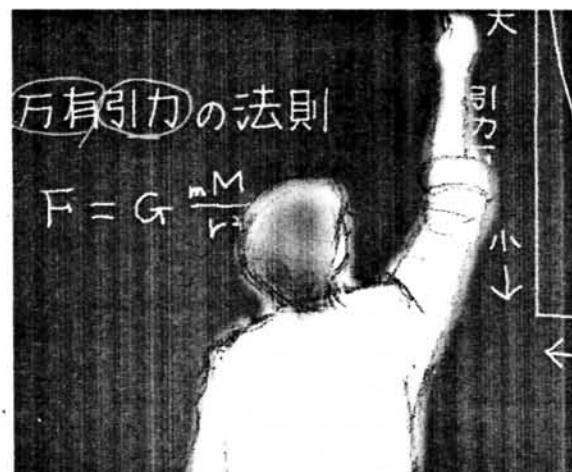
そもそも重力とは、どんな力で、なにもの、なのでしょう。

実は宇宙には4つの力があるとされています。重力、電磁気力、強い力、弱い力、です。このうち重力は力としては非常に弱いのですが宇宙全体に働き、この宇宙の構造を決めている、といつてもいい力なのです。そして、その特徴は引く力だけなのです。ほかの力、たとえば磁石の力の電磁気力はくっつく力と引き離す力がありますね。N極とS極は引き合い、N極同士とS極同士だと押し合います。この引力が星を作る力になり、地球、月、太陽など宇宙の天体を形作ります。また、それぞれの天体が互いに引き合い、太陽系や銀河系を作り、銀河系は銀河の集団を作ります。

宇宙はこれからどうなっていくのだろうか

ニュートンが万有引力の法則を発見した時、思い悩んだことがあります。それは引力がすべての星に働けば、みな引き合ってやがては一つに集まってつぶれてしまうことになる。宇宙はなぜつぶれないでいるのか。

その後、宇宙は膨張していることがわかってきました。しかし、その後どうなるか、これは実は今も答えられないのです。



☆プラネタリウム投影スケジュール☆

「重力」は7月20日から9月1日までです。

投影は毎週水曜・木曜・土曜・日曜の11時と14時の2回です。投影時間は約50分です。

相模川の生き立ちを探る会の紹介2－房総嶺岡帯の地質観察－

相模川の生き立ちを探る会は、毎月1回野外観察を行っています。次回の案内と、前回の報告を載せた「たより」を毎月発行しています。ここでは、3月に実施した第124回「相模川の生き立ちを探る会」の様子を掲載した「たより」から、会員の報告をご紹介します。

3月24日、気持ちよく晴れ上がった青空の下、今回の「探る会」は少し足を伸ばし、相模トラフの沈み込み前面に位置する房総の嶺岡帯を、千葉中央博物館の高橋直樹先生のご案内で観察しました。東西性の平行した2つの断層に挟まれた4000万年前の嶺岡層群は、断層で剪断された保田層群の基地に浮くように、海洋地殻を構成する様々な岩石がレンズブロックで点在するという複雑で難解な地質のようすです。鴨川地溝帯北断層に沿って鴨川に向かう南側の車窓からは、マントル上部に由来する蛇紋岩や剪断された保田層群からなる、なだらかな緩斜面と、その中にこぶ状に点在する、海洋地殻を構成する硬い玄武岩やハンレイ岩などからなる、突出した地形が特徴的であることを伺いました。

鴨川の弁天島に着くと、お目当ての枕状溶岩が飛び込んできました。チューブから絞り出されたような赤褐色の溶岩が、急冷しては殻を破って前進し、幾重にも積み重なっています。層状に貫入した灰色のドレライト岩脈は海洋地殻の表層をなす枕状溶岩の下部を構成する岩石で、海底で繰り広げられた壮大な地球のドラマを想像させるものでした。またここではきれいなガーネット状の結晶形を持つ方沸石や透明な細い棒状のソーダ沸石の採集もできました。

次の屏風島は、全く異なる結晶片岩からなる島でした。強い圧力と熱を受けた角閃片岩や石英片岩はどんな状況ででき、どこから来たのでしょうか。直ぐ隣りの弁天島と全く異なるブロック、これが嶺岡帯なのでしょう。この他、平久里産の海洋島起源のアルカリ玄武岩・カンラン石斑晶の大きいピクライト玄武岩・カキ化石が入る玄武岩質角礫岩等も採集し、それらはかつてハワイのような海洋の火山島が次第に水没し破壊されていく過程を示すとのことでした。

鴨川青年の家手前では、海岸の隆起波食台に広がる枕状溶岩を遠望し、入口の大露頭では30mにも積み重なる枕状溶岩を見上げ、青年の家敷地内では、海水で急冷した時にできるガラス質の表面をそのままに残した新鮮な枕状溶岩を間近に観察することができました。また、枕からピローブレッチャー（枕状溶岩の壊れたもの）に移り変わる様子も見られ、大変感激しました。

最後に八岡海岸において、嶺岡の複雑な地質に思いを馳せながら、嶺岡層

群を構成する様々な岩石を拾いました。とても珍しい深海底の生痕化石（ズーフィコス）、きれいなサーモンピンクの斜灰簾石や、驚くほど大きな角閃石斑晶の入る下部地殻に由来する角閃石ハンレイ岩、上部マントルを作る蛇紋岩など、会員それぞれが持ち帰ったお土産も嬉しいものでした。

帰路のフェリーの中では嶺岡層群の成因について色々話をし、「プレートの北上により生じた南北方向の圧力により、東西性2本の断層がほぼ同時期に出来、挟まれた嶺岡帯が持ち上げられたのではないか。何故、重い海洋プレートが沈み込まずに付加したのか」など、様々な疑問が吹き出し、あっと言う間に久里浜につきました。

今までの私達の学習域は丹沢を中心に富士・箱根・三浦・小仏山地でしたから、太平洋プレートの沈み込みによって、フィリピン海プレート上に生まれた軽い伊豆小笠原弧の一員である丹沢山地・伊豆半島、それを貫いて活動する箱根火山・富士火山などを見てきました。今回観察した嶺岡層群は、重い海洋プレート(太平洋プレート)を構成する枕状溶岩、下部地殻や上部マントルの岩石、そして、ハワイ島のような火山島を作ったアルカリ玄武岩などで、今までの観察域では見ることのなかったさまざまな岩石に、新鮮さを感じました。丹沢とは全く違う関連のない様に思える房総も、伊豆衝突帯という大きな視野で考えると、三浦半島と共に大いに関連のある重要な地域なのです。どんな関連があるのかは、これから少しづつ勉強していきたいと思います。

(会員 家入真理子)



鴨川北断層の地形を観察する

博物館カレンダー

<平成14年8月>

1	木	★寄贈品コーナー「湘南新道関連遺跡展」(～9/12)	展示室
2	金	展示解説ボランティアの会	特研室
3	土	体験学習「縄文土器を作ろう」	科学室
4	日	自然観察入門講座「貝化石を調べる」	西小磯
7	水	古文書講読会	講堂
8	木	天体観察会「スター・オーリング調査」	屋上
11	土	特別展記念講演会「市民と文化財保護法」	講堂
12	日	水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
13	木	体験学習「地形模型を作ろう」	科学室
14	金	民俗探訪調査会「調査報告会」	特研室
15	土	石仏を調べる会「カード整理」	特研室
16	日	特別展記念「遺跡を歩く①」	旭地区
17	木	天体観察会「地形模型を作ろう」	科学室
18	金	民俗探訪会「鳥屋の獅子舞」	津久井
19	土	◎漂着物を拾う会	虹ヶ浜
20	日	天体観察会「スター・オーリング調査」	屋上
21	木	特別展記念講演会「考古学の楽しみ方」	講堂
22	金	地質調査会「読書会」	科学室
23	土	天体観察会「流星群を見よう」	函南
24	日	○こども観察クラブ「セミのぬけがら調べ」	湘南平
25	木	天体観察会「流星群を見よう」	函南
26	金	展示解説ボランティアの会	特研室
27	土	○星を見る会「夏の星空に親しもう」	屋上
28	日	○君もプラネタリアン	プラネ室
29	木	○特別展記念「遺跡を歩く②」	大野
30	金	○君もプラネタリアン	プラネ室
18	日	○ろばたばなし	展示室
19	木	古代遺跡を探す会	北金目
20	金	○星を見る会「夏の星空に親しもう」	屋上
21	土	○こども観察クラブ「つる草の観察」	湘南平
22	日	○夏休み自由研究相談会	科学室
23	木	民俗探訪調査会「調査報告会」	特研室
24	金	○星を見る会「夏の星空に親しもう」	屋上
25	土	○湘南新道関連遺跡スライド映写会	講堂
26	日	○自然の新聞を作る会「霧降の滝」	吉沢
27	木	○体験学習「縄文土器を作ろう」	科学室
28	金	○相模川の生き立ちを探る会「富士砂防事務所」	富士宮市

☆：展示（無料） プラネタリウム（観覧料）
 ○：申込制 ◎：自由参加 無印：会員制

展示とプラネタリウム

☆夏期特別展「平塚市考古資料50選」：9月1日(日)まで
 ☆寄贈品コーナー「湘南新道関連遺跡展」
 会期：8月1日(木)～9月12日(木)
 ◎関連行事「スライド映写会」
 日時：8月24日(土) 14時～15時30分
 会場：博物館講堂 参加：自由
 ☆プラネタリウム「重力」
 期間：7月20日(土)～9月1日(日)
 投影日：水木土曜日の11時と14時

<平成14年9月>

1	日	水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
4	水	民俗探訪調査会	特研室
5	木	展示解説ボランティアの会	特研室
6	金	古文書講読会	講堂
7	土	★プラネタリウム「フリートーカプログラム」(～10/6)	プラネ室
8	日	地質調査会「大山亞層群2」	野外
11	水	博物館実習(～19日) プラネタリウム学習投影「星座と星の動き」(～3月)	博物館 プラネ室
12	木	石仏を調べる会「石仏調査」	真土
13	金	古文書講読会	講堂
14	土	◎漂着物を拾う会 地質調査会「読書会」	虹ヶ浜 特別研
15	日	民俗探訪会「鶴岡八幡宮神幸祭」 ◎ろばたばなし	鎌倉市
18	水	裏打ちの会 民俗探訪調査会「検討会」	科学室 特研室
19	木	展示解説ボランティアの会	特研室
20	金	★寄贈品コーナー「実習生による展示」(～10/30)	展示室
21	土	古文書講読会	講堂
22	日	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研室
23	木	天体観察会	屋上
26	木	石仏を調べる会「石仏調査」	真土
27	金	古文書講読会	講堂
28	土	相模川の生き立ちを探る会「古朝外輪山とカルデラ」	箱根町
29	日	古代遺跡を探す会	土沢

参加者募集

- こども自然観察クラブ「第2回・つる草の観察」
野外観察を通して自然のしくみを学びます。
日時：8月20日(火) 9時30分～16時
場所：平塚市湘南平付近
対象：小学校3年生～中学校3年生(児童のみ)
申込：往復はがきで8月10日までに申し込む。(定員30名)
- 自然観察ゼミナール「植物の観察と分類」
日時：8月21日(水)、22日(木)の9時30分～16時
対象：高校生以上で、長期的に植物の観察を続けていきたい方で、2日連続で参加できる方。
申込：往復はがきで8月10日までに申し込む。(定員20名)
- 自然の新聞を作る会「霧降の滝」
雑木林の花や虫を観察し、スケッチをしたり新聞記事にまとめたりします。
日時：8月24日(土) 13時～16時 場所：平塚市吉沢
申込：往復はがきで8月10日までに申し込む。(定員30名)
- 漂着物を拾う会
日時：8月10日(土) 9時30分～11時
場所：平塚虹ヶ浜海岸
参加：自由(初めての方は往復はがきで申し込むこと)
- 星を見る会「夏の星空に親しもう」
夏の星座や宝石のような二重星、月面の迫力あるクレーターなどを観察します。
期日：8月15日(木)、8月18日(日)、8月22日(木)
時間：19時～20時30分
場所：博物館科学教室・屋上(参加自由)
- ろばたばなし
日時：8月18日(日) (1)13時30分～ (2)15時～
場所：展示室民家(参加自由)
- 夏休み自由研究相談会
自由研究のまとめ方などをアドバイスします。
日時：8月20日(火) 9時～12時
場所：博物館科学教室
対象：小学生・中学生(参加自由)